



守ろうつなごう，吉川の農業

～ 未来のためにできること ～

第5学年 男子4名 女子7名 計11名

1 単元設定の理由

単元の目標

○地域のために自分たちにできることを考え行動する活動を通して，地域の一員としての自覚や誇りをもち，地域を大切にしようとする気持ちを高めるとともに，新たな課題を自分事として捉え，主体的・協働的に活動しようとする態度を育てる。

児童の実態

○本学級の児童は，前学年までに，地域のよさを見付けたり川の自然を調べたりする活動を通して，地域の自然や人と広く関わり，自然の豊かさや人の温かさを地域の魅力と感じている。しかし，校区外から通学している児童や転入児童が多く，地域の様子の理解度に個人差がある。また，学校行事である学校田の田植えと稲刈りを毎年体験してきたが，今年度は田植え前の肥料まきから関わり，米作りの楽しさとともに大変さも実感している。

○「吉川ふるさと学習アンケート」では，総合的な学習の時間について「好きですか」という質問には9割が肯定的な回答をしているが，それ以外の質問について「できた」「少しできた」と回答したのは，7から8割にとどまる。また，「資質・能力アンケート」では，「実行する力」や「課題を見付けて調べる力」，「自分の考えを伝える力」が低くなっている。

単元について

○児童は，農業への関心の高さに個人差はあるものの，皆が地域の自然の豊かさを誇りに思い，今ある田園風景が未来に続いてほしいと願っていることを共通認識した。そこで，地域の人の話を聞くことにより，地域の農業の現状を知り課題を設定し，いろいろな人の意見を材料に，未来の地域の農業のために自分たちにできることを考える。そして，リーフレットを作成する等，若い人の農業への関心を高めるための活動をする。また，学校田での米作り体験や，社会科「未来を支える食料生産」の学習と関わらせ考えを深めていく。

○児童は，課題を解決するためのアンケートやインタビューの実施によって，情報を収集・分析したり，他者と関わったりすることで，思考力を身に付け協働性を高めることができる。また，地域を大切にしようとする気持ちを高めるとともに，新たな課題を自分事として捉え，主体的・協働的に活動しようとする態度を育てることができると考え，本単元を設定した。この単元で身に付けた資質・能力はSDGsのゴール2「飢餓をゼロに」につなげることができる。

指導にあたって

〈研究主題にせまるために〉

主体的・協働的に学び，これからの社会を創ろうとする子供の育成
～思考力・表現力を育む「深い学び」を目指して～

○児童が課題を自分事として捉え，主体的に活動できるようにするため，地域への期待を自分たちの課題と捉え直させ，活動のゴールを児童に発案させた。また，常に「なぜ」という視点で考えさせたり，自分が世の中のあらゆるものと関わり合っていることに気付かせたりすることによって，深い学びにつなげたい。

○話し合いや，他者の意見を収集する活動によって，多様な考え方や見方があることに気付かせ，さらに情報を基に因果関係を探ったり価値付けたりしながら思考力を高めたい。

本時における主体的・協働的な学びの工夫

- 前時の学習活動の内容を整理することで，継続的に思考を深められるようにする。
- グループ活動を取り入れることで，協力してよりよいアイデアを考えられるようにする。

目指す児童の姿

○地域の課題に気付き，地域をよりよくするために行動したり，身に付けたことを生かしたりすることのできる子供

2 指導と評価計画（全 35 時間）

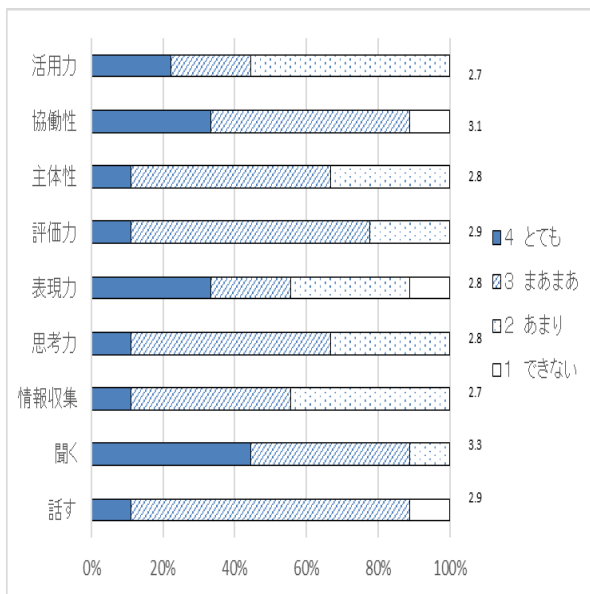
小単元 (時数)	思考力	小単元の目標と主な学習内容 ◎ねらい ○学習内容	評価の観点 (評価の方法)	教科・特別活動 等との関連
1 （情報収集・課題発見5時間）	多面的に見る 構造化する	◎吉川の農業について知り、課題を設定することができる。 ○個々の経験や知識から、吉川の農業について知っていることを共有し、吉川の農業についての思いを交流する。 ○地域の方に、吉川の農業について話を聞く。 ○地域の方の話の内容をまとめ、課題をもつ。	知②(発言・振り返り) 知①(ワークシート・行動観察) 知④(ワークシート)	国語科(6月) 「知りたいことを聞き出そう」
2 （情報収集・整理・分析20時間）	多面的に見る 比較する 構造化する 多面的に見る 分類する 構造化する	◎課題を解決するための方法を考えることができる。 ○他校の同学年の児童からアンケートをとり、農業についての関心を知る。 ○アンケート結果を分析し、解決方法を考える。 ○農事組合法人よしかわの方にインタビューし、法人の役割や問題について知る。 ○野菜作りをしている方にインタビューし、野菜作りの工夫や楽しさ、問題について知る。 ○インタビュー内容を分析し、解決方法を考える。	知④(発言・振り返り) 思①(発言・ワークシート) 知③(発言・ワークシート) 思①(発言・ワークシート) 主①(発言・行動観察)	社会科(7月) 「未来を支える食料生産」 国語科(9月) 「問題を解決するために話し合おう」
3 （まとめ・表現10時間）	関連付ける 理由付ける 構造化する	◎吉川の農業を守り、つなげる活動を行うとともに、学習成果や自分の成長を確認することができる。 ○協力して、伝える方法について話し合い、計画を立てる。 ○相手や目的を意識し、工夫してまとめることができる。 ○身に付いた力について振り返り、農業について考えたことをきっかけに、これからも地域の一員として行動する意欲をもつ。	主②(行動観察・振り返り) 思②(制作物・行動観察・振り返り) 主③(振り返り)	道徳(1月) 「親から子へ、そして孫へと」 社会科(2月) 「国土の自然とともに生きる」

3 単元の評価観点・評価規準

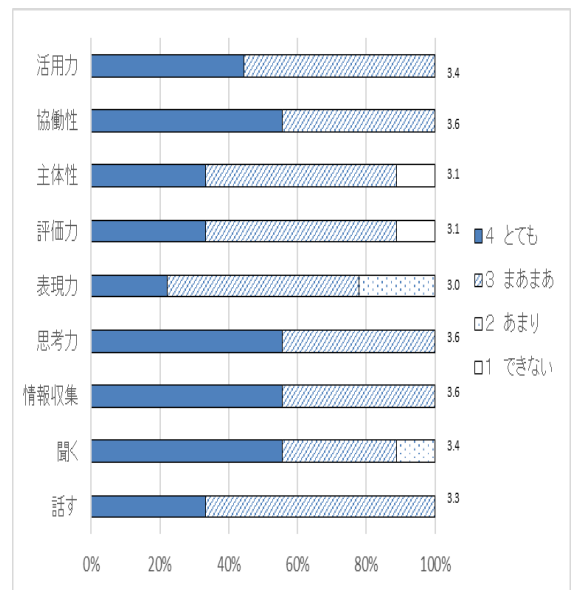
評価の観点		評価規準			
		[A (★★★)]	[B (★★)]	[C (★)]	
知識・技能	知識	① 吉川地域の農業や産業の様子、その発展に向けて努力する人々の思いや取組が分かり、自分たちとの関わりを理解している。	① 吉川地域の農業や産業の様子、その発展に向けて努力する人々の思いや取組が分かっている。	① 吉川地域の農業や産業の様子が分かっている。	
	課題発見・解決力	コミュニケーション能力	② 自分の立場や考えの根拠を明確にして、友達の意見につなげて自分の考えを話している。(話す力) ③ 相手の意図を捉え、自分の考えを見直したり、新たな考えはないか考えたりしながら聞いている。(聞く力)	② 友達の見解につなげて自分の考えを話している。(話す力) ③ 自分の考えを見直したり、新たな考えはないか考えたりしながら聞いている。(聞く力)	② 自分の考えを話している。(話す力) ③ 自分の考えと比べながら聞いている。(聞く力)
		情報収集・活用力	④ 地域社会の中に問題や課題を見付け、課題解決に適切な情報を集めたり選んだりし、計画的に学習を進めている。	④ 地域社会の中に問題や課題を見付け、情報を集めたり選んだりし、計画的に学習を進めている。	④ 課題を見付け、情報を集めたり選んだりし、計画的に学習を進めている。
思考・判断・表現	思考力・表現力	思考力	① 既得の知識と収集した情報を基に、因果関係を探ったり、価値づけたりしながら思考を深めている。	① 収集した情報を基に、因果関係を探ったり、価値づけたりしながら思考を深めている。	① 収集した情報を基に、因果関係を探り、思考を深めている。
		表現力	② 課題解決に向けて調べたことに、自分なりの意見を加え、相手や目的に応じて分かりやすく表現している。	② 課題解決に向けて調べたことに、自分なりの意見を加え、相手や目的に応じて表現している。	② 課題解決に向けて調べたことに、自分なりの意見を加え表現している。
		評価力	③ 自分の思いや考えの変容、身に付いた力を意識し、学んでいることの価値や自分の成長を自覚するとともに、友達や学級のよさを見付けている。	③ 自分の思いや考えの変容、身に付いた力を意識し、学んでいることの価値や自分の成長を自覚している。	③ 自分の思いや考えの変容を意識し、自分の成長を自覚している。
主体的に学習に取り組む態度	主体性・協働性	主体性	① 課題を自分事として捉え、よりよい解決に向けて自分なりの考えをもち、主体的に取り組んでいる。	① 課題を自分事として捉え、よりよい解決に向けて主体的に取り組んでいる。	① 課題解決に向けて主体的に取り組んでいる。
		協働性	② 課題の解決に向けて、互いの意見や異なる選択を生かしたりしながら、協力して活動を発展させている。	② 課題の解決に向けて、互いの意見や異なる選択を生かしながら、協力して活動をしている。	② 課題の解決に向けて、互いの意見を生かしながら、協力して活動している。
		活用力	③ 学習を通して身に付いた知識や力を、学校・地域・社会の中で生かし、自分たちができることを計画・実行したり、これから先について考えたりしている。	③ 学習を通して身に付いた力を、学校・地域・社会の中で生かし、自分たちができることを計画・実行している。	③ 学習を生かし、自分たちができることを計画・実行している。

4 単元の検証

児童アンケート結果の比較



資質能力アンケート (6月)



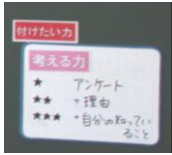
資質能力アンケート (12月)

5 成果と課題

(1) 成果

【検証の視点③】身に付けたい資質・能力や評価基準をルーブリック表で児童と共有することで、汎用的な資質・能力を育成することができたか。

具体化して提示した付けたい力



児童自身が評価基準を考えるためのルーブリック表

毎時間、授業の導入でめあてとゴールを確認し学習活動を理解させたうえで、身に付けたい資質・能力、またその評価基準を児童と一緒に考えた。毎時間継続することで、次第に児童同士の話し合いでその時間の評価基準を決めていくことができるようになった。これらを指導者と児童が共有できるよう、板書で提示しておいた。このことによって、ゴールを達成するための見通しが可視化され、付けたい力をより高めるためのポイントが、児童にとって分かりやすくなった。

児童の資質能力アンケートの結果は、「評価力」の肯定的回答が、78%から89%に上がった。

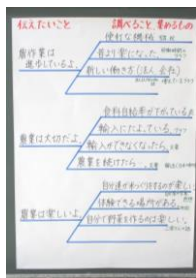
(2) 課題

【検証の視点①】思考ツールの活用や対話的な学習を必然性のある場面で取り入れ、思考力・表現力を育成することができたか。



伝えたいことを考えるための表

調査内容を考えるためのくまでチャート



研究授業で、アンケート結果を分析する活動において表を用いたが、児童の思考の手立てとしてうまく活用できなかった。因果関係をもとに考えることをねらったが、必ずしもそれだけでは整理できないこともあった。また、思考の流れを表の左から右へと一つに定めたことによって、思考を狭めることになってしまった。しかし別の授業で、調査していきたい内容を考えるためにくまでチャートを用いたところ、考えを効率よくまとめることができ、その後の活動計画を分かりやすく整理できた。

よって、児童の思考を深めたり広めたりするのにふさわしい思考ツールが何であるか、的確な判断が必要である。そのためにも、事前に児童の反応を予想して丁寧に指導計画を立てたり、様々な学習活動の中で積極的に思考ツールを使うことで慣れたりするといった、目的に合った使い方ができるための工夫が必要である。

(3) 考察

未来の吉川にも農業を残したいという、学級全員の一致した願いを確認してスタートさせたことによって、児童が課題を自分事と捉えることができた。また、児童は、地域の方への聞き取りや他校児童へのアンケート、社会科「未来を支える食料生産」の学習で得た知識をヒントに、単元全体を通して試行錯誤しながら主体的・協動的に学習活動を行うことができた。6月に肯定的な回答が低かった「実行する力」「課題を見つけて調べる力」は、12月にはいずれも100%となった。

付けたい力の評価基準を考えることは、同時により望ましい活動の在り方を考えることにもなり、児童がより充実した学習活動を行うための手引きとなり得た。このことは「相手の立場になって、内容や書く順番を考えた。(表現力)」「目的を確認し、いるものいらないものを考えて調べることができた。(情報収集・活用力)」「ほかの人の意見も合わせて、考えて発表できた。(話す力)」と児童が振り返っていることから分かる。また評価基準を踏まえて振り返りを記述することは、自分の活動や思考の過程、方法等を内省する手助けとなった。さらにそのような振り返りができることによって、疑問や新しい課題がわき、新たな課題を見つけることや次の活動への意欲向上、見通しをもつことへとつながった。

情報収集の手段として、地域の方への聞き取りに頼ることが多かった。しかし、一歩引いて自分達の地域を客観視する等、より広い視野で物事を捉えたり考えたりするために、地域外から情報を得ることも取り入れたい。またさらに、広く国や世界へも目を向けることは、SDGsの視点との関連やこれからの社会を創ろうとする子供の育成においても重要であると考えられる。